

ひかり

2021年5月号



Pentecost

日本聖公会 三光教会

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

電話 03(3781)2554

FAX 03(3781)2544

<http://nssk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

創立 救主降誕 1912 年(大正元年)11 月 2 日

第 693 号

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。
(ヨハネによる福音書 3:16)

また一致へ

司祭 アモス金 キム デウオン 大原

聖霊降臨節を迎え、聖霊の慈雨が私たちの中に、またコロナ化で長らく苦しめられている世の中にも豊かに降り注がれますようお祈りいたします。

本場に大切なものは失ってはじめて気づくもの。ガラヤの全土を回って病人をいやし、悪霊を追い出し、飢えた人を食べさせ、友のない人の友となってくださったのに、彼らはそのすべてをなすつた方については何も見えませんでした。主イエスがお離れになってからはじめて、その方は神の子であつたことを痛感しました。なぜ気づきはいつも遅れてやつてくるのでしょうか。

弟子たちは恥じらいを覚え、自責の念に駆られたことでしょう。卑怯にも最も大変な時に逃げてしまったことが浮かび、胸がかきむしられる思いだったかもしれない。聖霊が降られたのはまさにこの時でした。聖霊は弟子たちの傷ついた心を慰め、かばって立ち上

がらせる強力な力として来られました。恐れと疑いの中でうずくまっていた時は過ぎ去り、使徒たちは堂々とイエスの名を宣べ伝えるようになりました。

イエスは人間が神に似せて造られたことの意味を示してくださいました。人間によって作られた境界線を越え、会えることのない人たちを会わせ、差別と嫌悪の世界を理解と愛の世界に変えられました。分裂の霊を追い出すこと、これはイエス・キリストの働きであつて、クリスチャンの使命でもあります。聖霊の力によってできることです。実際に聖霊が降られた時、人を分け隔てる境界は消え、言葉が通じ、思いと心が通じるようになりました。

4 年前に英国マンチェスター・アリーナにおいて発生した自爆テロ事件を覚えていてでしょうか。多数の死傷者が発生し、非常に悲惨でむごたらしい状況の中で、皆恐怖に襲われて逃げているのに、何人かのホームレスが現れて倒れている人たちを助け、その中の一人とのインタビュを読んだことがあります。「ホームレスだからといって人間でないわけではない。

他人を助けることは人間の本能だ。怪我して助けを求めている子供たちを見捨てて逃げてしまったのなら私は自分を赦せなかっただろう」ということでした。このホームレスの心の中に聖霊が働かれたのだと思います。聖霊はこのように私たちの中に眠っている愛を呼び起こします。

大学時代の恩師からいただいた書道作品にこういう文章があります。「愛するというのは自分の限界を超える飛躍である。すべての愛は飛躍につながり、飛躍はまた飛躍して翼を広げる。一人への愛は一人にとどまらずにその人の愛する人につながり、美しい社会と立派な歴史への愛につながる。」これは聖霊の働きについての的確な説明ではないかと思えます。愛とは自分を超えて広がる飛躍であり、その飛躍はもっと大きな愛をもたらし、その愛に応える人たちが共同体をなして社会と歴史が新しくなるということです。

教会は人によって造られた組織やプログラムではありません。教会とは自分の傷と弱さを認め、分かち合い、受け入れ合う者たちと与えられる神の賜物です。三光

教会がそのような教会になりますように。聖霊が私たちの中に降られ、私たちを立ち上がらせ、イエスこそが世界の中心であることを宣べ伝えることができますように。

「二報告」

今まで公祷が中止され、教会活動のほとんどを行なうことが出来なかった期間に、教会では何をしていたのか等を教会委員会報告として皆様にお配りしていました。これは昨年教会報「ひかり」を定期発行することが出来なかった時に教会委員会報告を皆様にお届けすることで教会の今を知っていただけではないかと思いい週報と一緒にのお送りさせて頂いていました。ですが、最近は最少人数で「ひかり」の編集作業を再開し、毎月発行することが出来ています。(郵便の関係で毎月発送はしていません。)今現在、皆様へは週報と一緒に届く教会委員会報告と「ひかり」の中での教会委員会の記録という2種類の紙面があると思います。お読みいただければお分りかと思いますが、重複している事が多いため、週報と共にお届けしていた教会委員会報告を今月(3月分)からお送りしないことと致しました。

「ひかり」の教会委員会の記録だけでは不十分とお感じになる方には教会委員会議事録を開示して

おりますので、ご覧になりたい場合は、司祭か聖職候補生、または教会委員のどなたでもよいのでお申し出下さい。

☆ ☆

三光教会 俳句の会

紙上句会を継続して開催

—コロナ禍に負けないで—

教会での対面礼拝が中止された2020年2月以来、三光教会・俳句の会も句座形式による集まりを中止して現在に至っております。しかし、俳句を通じての交流と信仰の交わりを絶やさないために紙上句会を開催しようということになり、昨年の春から10回の紙上句会を開催しました。

会員は月ごとの投句を幹事のもとに送ります(一人4句)。幹事は手書きで投句一覧を作成して、会員に送ります。会員は投句一覧を読んで良いと思った4句を選んで郵送し、幹事はそれらをまとめ整理して、全作品、会員各自の選

句の詳細、高点句、などをパソコンに入力・印刷して、「句会報」としてまとめ、再び会員に送ります。このようにして進めた紙上句会がコロナ禍のもとで10回に達しました。

紙上句会は今後も予定されています。教会に通うことが出来ない閉塞の日々を支える、ささやかな語り合いの場になっているのが「紙上句会」です。句会の作品については、結社誌「からまつ」の選者である大石坦兄から会員個々に指導助言を頂いて、会全体のレベルが高まっています。昨年12月から今年2月までの作品の一端を紹介します(順不同)。

〈記・鈴木〉

* *

出来ること出来るだけして年用意
三密をさけて自粛の寝正月
啓蟄や主のみことばを聞きたくて

大石 坦

コロナ禍も締め括りたき師走かな
夏みかん鮮やかな黄で季節告ぐ
立春や希望給いし主に感謝

吉村輝夫

被献日に御言葉二つズーム良し
豆まきてコロナよ去れと祈るのみ
プチプチとどんぐり踏む音冬の道
佐藤百合子

コロナ禍や人なき聖堂年暮るる
巢ごもりや早や一年に顕現日
マスクして過ごしし年に思い多々
吉村悦子

礼拝のオルガン透る冬朝日
初夢の雪の月山父の里
落椿あのほほえみの別れかな
三澤清太

水餅は我が家の慣いこの年も
暮れなずむ心淋しき冬の空
風呂吹の湯気立ちのぼる夕餉かな
内田安雄

児等の声道いっばいに日脚伸ぶ
初雀青き小さき菜をつく
マネキンの明るき春のスタイルに
内田公子

鐘の音が絶えて久しい早師走
良き師との冬の夜のミサ懐かしい
春野菜色も香りも味も良し
橋本 守

地に落ちしばかりの桜葉彩美し
もろもろの思い溢るる師走尽
コロナ禍の歴史の片隅生きるわれ
伊藤貞子

冬の星狂わぬ動き畏怖の念
板塀の汚れ残雪子ら遊ぶ
冬の海尖閣狙う令和でも
渡邊勝弘

明日は雪スコップ用意管理人
朝一番雪掻きし人天国へ
夢あれば雪振被ひ踏みつけて
今井香津子

龍村の帯の絹鳴り針供養
春の雪石像の目を濡らしけり
春宿るまずは心のささくれに
笠原立子

新しい年来て教会へ喜んで
子・孫とスカイプで話す時を持つ
足のケガ良くなり二人でお散歩に
藤田清子

コロナ禍にサンタの体調気にする
子
幼子の地べたの絵にもマスク顔
天気図に三寒四温待ち焦がれ
吉川 晃

立冬や柩まもりて燭ふとし
過ぎ行きをみな薫らせて枇杷の花
子に配る数加え摘むふきのとう
鈴木 一

教会のお掃除にご協力を

聖堂内外のお掃除の協力者が
少なくなりました。土曜日の午
前10時から1時間程ご奉仕くだ
さい。ご協力いただける方は直
接参加してください。(休止中)

はじめて教会にいらした方へ
礼拝様式に馴れない方は椅子に
お掛けになったままで結構です。
●礼拝中の献金は、信施金とし
て伝道のために献げられるも
の です。金額は自由です。
●わからない点は隣の席の者か
案内係にお聞きください。

礼拝のご案内

■主日礼拝
午前 7:00 早祷・嘆願
午前 7:30 聖餐式
午前 9:00 ステパノ会
(日曜学校)礼拝
午前 10:30 聖餐式
午後 4:00 夕の礼拝
■平日礼拝
月曜日から土曜日までは、
毎朝 6:30 の早祷に引き続
いて聖餐式